

I 実践（昨年度の実践）

1 研究主題

思いやりや助け合いの心を育み、自他の立場や気持ちを考えて公正公平にふるまう態度を養う人権教育の在り方

（1）主題設定の理由

本校の教育目標は「夢をもち、心豊かに、たくましく生きる日高っ子の育成」である。「心豊かに」は人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」に深いかかわりをもつ。この教育目標の具現化のための努力事項の施策の1つに「地域の方やゲストティーチャーとの心の触れ合いができる活動の工夫」がある。様々な学校行事や教育活動における、地域の方との心の触れ合いを通して、日高の人、自然、文化を愛し、地域や郷土の自然文化と共に生きる心豊かで思いやりのある日高っ子の育成を目指している。

また、情緒障害学級「しいのき」、知的障害学級「ゆりのき教室」、ことばの教室、通級指導学級「かしのき」があり、特別支援学級の児童と共に学んでいこうとする姿勢を身に付けることが大切であると考えます。

そこで、集団活動を通して、思いやりや助け合いの心を育み、自他の立場や気持ちを考えて公正公平にふるまう態度を養うことをねらいとし、本主題を設定した。

（2）研究内容

- ア 各教科・領域の学習を通して、思いやりの心を育て、公正公平な態度を養う。
- イ 異学年交流活動を推進し、思いやりの心を育てる。
- ウ 朝のあいさつ運動による学校・地域に響き渡る元気なあいさつを通して、基本的な生活態度や習慣の育成を図る。
- エ 高齢者や地域の方との交流行事に参加して、感謝や思いやりの心を育てる。

2 実践内容

（1）いじめノックアウトフォーラム

児童の事務局委員会が中心になって、いじめを考えるための集会を企画した。事前に全児童からアンケートをとり、児童たちからあげられた事例をもとにして、劇で見せたり、アンケート集計結果をグラフでわかりやすく見せたりして児童たちが考えられるようにした。



（2）4年生の総合的な学習の時間「高齢者にやさしく」

ア 運動会の敬老種目への招待、種目への参加

運動会の敬老種目に地域の高齢者の方々を招待し、4年生と一緒に種目の参加を行って日頃の感謝の気持ちを伝えた。

イ ひたちの森ガーデンへの訪問

4年生の学習で、地域にある「ひたちの森ガーデン」を訪問し、ソーラン節の踊りの披露や、折り紙などを高齢者の方と一緒に活動し、交流を深めた。



(3) 人権標語の取り組み

全クラスで人権について考え、人権に関する標語をつくり中央昇降口に掲示し、いつでも見られるようにした。

(4) 兄弟学級遊び

上級生が中心となって、下級生に楽しんでもらえるように計画を立て、交流をした。

(5) 異学年との交流学习

4年生が総合的な学習の時間に1年生に学校を案内したり、遊具やグラウンドの使い方を一緒に遊びながら教えたりした。

2年生は「なかよししゅうかい」を企画し、1年生と名刺交換や外遊びをした。

(6) 朝のあいさつ運動

児童の事務局委員会の児童が中心となって、朝、昇降口に立ち、さわやかマナーキャンペーンを実施した。また、小木津駅付近でのあいさつ運動も展開した。

(8) おんもさ祭への参加

地域自治会が中心となって行われるこの祭に、日高小児童のコーナーが設けられている。地域の方や教師の支援を受けながら、児童が自分たちのコーナーを運営した。



3 成果

(1) 各教科・領域での学習や行事では、計画の段階で相手の立場（高齢者や下級生）を考えながら自分たちのできることは何か考えることができた。また、実際に触れ合う場面では、思いやりをもって相手と関わる姿が見られた。

(2) 地域の人との触れ合いのなかで、たくさんの人に見守られていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようになった。

II 課題

1 今年度はコロナウィルス感染予防のため集会活動を行うことができなかった。道徳の時間に人権について考える時間を設けたが、他にも集会という形でなく人権活動を行う方法を考えていきたい。

2 異学交流の更なる充実を図り、小学校全体として思いやりの気持ちを広げていきたい。

III 人権コーナー

「人権とは何か」が分かりやすいように配慮して人権コーナーを設けている。また、「あなたの思い わたしの思い」をキーワードに、各種福祉活動の報告や児童が書いた人権メッセージの紹介などを行っている。

